

03

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第3回地域夢・未来カフェ in 桜が丘

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため、「第3回地域夢・未来カフェ in 桜が丘」が開催されました。

日時：2012年12月14日（金）14:30～16:30

場所：川西市役所 202会議室

参加人数：市民13名+市WGメンバー3名

当日のスケジュール

- 14:30 開会
- 14:35 当日スケジュール説明・ふりかえり
- 14:40 イントロダクション
- 14:50 テーブルワーク（活動案のとりまとめ）
- 16:10 グループ発表
- 16:25 今後の流れの説明
- 16:30 閉会

当日スケジュール説明～イントロダクション

開会のあいさつの後、前回のふりかえりと当日のスケジュールの説明がありました。その後、アイスブレイク「喪失体験」を行いました。付箋に「友人」「健康」「趣味」「お金」「役割」「仕事」という6つのキーワードを書き、ジャンケンに負けると1枚ずつ破っていくゲームです。残った付箋は人によりさまざまで、参加者の中でも価値観が異なっていることを体感しました。また、6つのキーワードは、年をとるごとに失っていくものですが、地域活動等を行うことで新しく得ることもできるという話もありました。



テーブルワーク～グループ発表

各グループのテーマ

- Aグループ：地域活動（自治会等）の活性化
- Bグループ：ボランティア活動の活性化
- Cグループ：地域のつながる場づくり

テーブルワークでは、第2回に引き続いて活発な議論が行われ、最終的な活動案がとりまとめられました。できあがった活動案については、各グループから全体に向け発表しました。

Aグループでは、地域活動の活性化として“楽しい自治会”づくりについて、Bグループでは地域分権制度について、Cグループでは、地域がつながる場づくりについての話し合いが行われ、発表されました。



Aグループ 地域活動(自治会等)の活性化

“楽しい自治会”

現状

- ・全く活動していない地区がある→自治会費は余っている
- ・自治会=ややこしいイメージ
- ・行政、地区福祉委員会、自治会をどうつなげるか？
- ・役員のなり手が無い
- ・役員=損している？
- ・自治会長を22年している
- ・高齢化している→82歳は若い
- ・役員になることに家族が反対する
- ・熟練することが必要である
- ・ゴミの関係で入っている
- ・出てこない人が悪い噂を言う
- ・話し合いのマナーがなっていない
- ・批判しない、悪口を言わない、強制しない、個人攻撃しない、陰口を言わないことが大事

- ・社会背景として絆がなくなっている

今後の取組について

- ・報酬、予算が必要である←行政からの支援
- ・若い人、子育て中の親、誰もがOKであること
- ・自治会のサポーターズクラブをつくる
- ・自治会館(第4日曜日)を自由に開放する
- ・自治会へのアドバイザーが必要
- ・自治会員のスキルアップ、ISOの仕組みを利用する
- ・全員副会長にする
- ・気軽にお茶飲みながらしゃべれる場をつくる
- ・楽しい自治会にする
- ・何でも言い合える関係づくり

地域分権について

- ・地域分権の受け皿→コミュニティが必要では??
- ・拠点が必要!!
- ・自治会長などを呼んで何回か集まってもら

Bグループ ボランティア活動の活性化

地域分権制度検討に向けて

受け皿

- ・本来ならばコミュニティである
- ・各主体が入っているもの
- ・地域の代表性が担保できていること
- ・桜が丘小学校区は、各組織が線での結びつきで、面のつながりが無い
- ・コミュニティがないので、どうするか？

案

- ・期限付きのプロジェクトで検討する
- ・民生委員、自治会、地区福祉委員会に参加してもらう
- ・市から呼びかけてもらう
- ・(自治会に入っていないけど)興味のある人も募る
- ・公募する
- ・自治会に入っていない人の意見をどう把握するか？
- ・自治会ではない、地域全体の意見を担保する必要がある

拠点

- ・各主体によって異なるのではないか

人材

- ・事務局や事務局長が必要
- ・パートが必要(例:公民館)

地域担当職員

- ・役割分担が必要ではないか(社協からの担当職員、市からの担当職員など)
- ・提案力のある人
- ・主導力のある人
- ・プロジェクト選定や予算配分の意見を言える人
- ・市のOBの再任用
- ・知識や経験がある人
- ・スピード感をもって対応してほしい

地域分権

- ・何を分権しようとしている
- ・制度の枠組み(構想)→地域へフィードバック

Cグループ 地域のつながる場づくり

場所

- ・ 現在2か所のカフェがある
- ・ ふれあい会館をもっとわかりやすくする
- ・ 「こころや」は場所はよいが少し狭い
- ・ 空き家の活用を検討する
- ・ 自治会館もよいが、坂を上るのが大変なところもある
- ・ 栄花会館の裏の空き地が良い拠点になる
- ・ 空き地を拠点にして建物ができるか？
- ・ 市に予算化してもらう

運営

- ・ 地域の団体で担当を決めて実施する
- ・ 責任をもって運営してくれるところに委託する
- ・ 費用面を考えないといけない
- ・ ボランティアの補助を交えて運営する

企画

- ・ 具体的に考えるとなかなか難しい
- ・ 若い世代に企画を考えてもらう
- ・ もっとたくさんの人で考えないといけない

まずはできることから

- ・ 学校で3世代交流の料理教室がある
- ・ 料理教室に行かれる方もいる

- ・ 子どもが多いエリアもいくつかある
- ・ 子どもと顔見知りになって、カフェにも気軽に来てもらえるようになりたい
- ・ 公立高校、専門学校がある
- ・ 地域に住み、こういうことに関心を持つ学生
- ・ こういう企画にかかわることが出会いの場になる

遊びの場

- ・ まちなかの子どもの遊び場になるようにする
- ・ 昔の遊びをやる
- ・ 世代を超えて、遊びの場所にする
- ・ 続けていくことが大切である

拠点

- ・ 拠点を活用する、自治会館の活性化
- ・ 西宮の市民会館は、印刷機もあり避難所にもなる
- ・ 学校は殺風景、雰囲気のある場所が必要

PR・宣伝

- ・ イベントのお誘いやPRが大切である
- ・ 若い世代に興味を持ってもらうよう工夫する
- ・ 興味のある人は回覧板などを見てくれている
- ・ 時間はかかるが、少しずつ広げていくことが肝心である

